

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県北会場>

科目 ⑧放課後児童クラブに通うこどもの育成支援

- ◆ 保護者との密接な連携、学校、地域等との連携の必要性を感じた。保護者と支援員が子どもの様子を互いに共通理解し、信頼関係を築くために日頃伝え合うことの大切さを知った。子どもが主となり、遊び、生活、自己管理能力を身に付けることができるよう援助することで、安心して過ごすことができるよう努めたい。内容を記録することで、子どもの情報を共有し、支援の内容の充実、改善に努め、定期的に家庭に伝えることで安心して利用してもらいたいと思う。
- ◆ 子どもが安心して過ごせる環境を整え、安全に配慮しながら子どもたちが自ら危険を回避できるように支援していくということを学びました。また、子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が大切だと思いました。安心して過ごせる環境作りと、一人ひとりに寄り添い子どもの気持ちに共感した支援をしていきたいと思います。
- ◆ 育成支援というのは、子どもの健全な育成と遊び及び生活の支援を総称して「育成支援」と表現することが分かった。子ども自ら進んで学童クラブに通い続けられるように援助することが大切ということを理解しました。また、子どもが発達に応じた主体的な遊びや生活をできるようにすることが大切ということを学んだ。そして、子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助し、生活に主体的に関わることができるようにしたい。
- ◆ 放課後児童クラブは必要不可欠な場所であるということで、私たちは子どもたちにより充実した支援をしていかなければならないと改めて思った。生活の中でのトラブルやケガ等については、個々の子どもに寄り添い丁寧に対応していくことが大切であることを理解できた。その中で、仲直りすることについてお互いに理解し合えるまでの工程が大切で、なぜそうしたか等、そのときの気持ちをきちんと聞く姿勢が大切である。そのための育成支援ノートの記録が職員間の共有に繋がると思った。
- ◆ 子どもが「学童に行きたい」と自ら思うことができるように、支援者一人ひとりがしっかりと援助する必要があると思った。子どもが「主体的」となるよう保護者や学校と連携をして、保護者が安心して学童に子どもを預けることができるように、子どもの様子を日常的に伝えたり、言い訳やうそなどではなく、子どものありのままの姿を適切に伝えたりするようにしていきたい。